

令和7年度 第1回 砂川市地域公共交通会議

日時：令和7年6月10日（火） 午後2時から

場所：砂川市役所 中会議室

出席者：

区 分	所属・役職	氏 名	備 考
会長 (1号委員)	砂川市 副市長	井 上 守	
2号委員	北海道運輸局札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	門 間 俊 也	
副会長 (3号委員)	北海道空知総合振興局 地域政策課長	宮 本 哲 也	
4号委員	北星三星交通(株) 営業課長	荒 谷 節 生	
7号委員	砂川市老人クラブ連合会 会長	鈴 木 日出男	
監事 (7号委員)	砂川市町内会連合会 副会長	岩 井 和 美	
8号委員	砂川市 総務部長	三 橋 真 樹	
	砂川市 保健福祉部長	畠 山 秀 樹	

欠席者：

区 分	所属・役職	氏 名	備 考
4号委員	北海道中央バス株式会社 滝川営業所長	太 田 隆 広	
	ふじ観光(株) 代表取締役	出 村 省 三	
5号委員	一般社団法人北海道バス協会 参与兼事務局長	井 元 秀 樹	
6号委員	北海道地方交通運輸産業労働組合 協議会 副議長	高 橋 英 雄	
監事 (7号委員)	砂川市社会福祉協議会 会長	岡 本 昌 昭	

事務局：

区 分	所属・役職	氏 名
事務局長	砂川市 市民部長	堀 田 一 茂
事務局次長	砂川市 市民生活課長	伊 藤 修 一
事務局	砂川市 市民生活課生活交通係長	松 平 齊 士

1. 開 会 (14:00)

事務局次長 全 13 名出欠の報告 (欠席 5 名)

2. 挨拶

会 長 ただいまご紹介いただきました副市長の井上と申します。よろしく申し上げます。

まず、本日はご多忙の中、令和 7 年度第 1 回砂川市地域公共交通会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。

ご理解とご利用をいただきまして誠にありがとうございます。

当市の乗合タクシー事業につきましては今年で 10 年をむかえまして、始まったのは平成 24 年の実証実験から、今、保健福祉部長の畠山さんが企画の係長で、私は隣の財政の係長ですね、政策調整課が受け持ってスタートしました。

本格運行は 27 年の 10 月からということでございますので、今年でまだ 10 年ということでございます。この間ですねタクシー業界さんには本当にお世話になりながらですね、なんとか 10 年すごしてきました。利用者数も 1 万人を超えるという形です。非常にみなさんにはご好評いただいております。毎年のことですけれども老人クラブ連合会の鈴木会長からですね料金の体系をなんとかしてほしいということでご意見をいただいているのですけれども、実は昨今の物価高の影響もありまして、300 円と 500 円の料金については今、現在据え置いておりますけれども、タクシー会社を目の前にして言うのもあれですけど、やればやるだけ赤字になっているというような状況でございますので民業を圧迫しない程度の公共の、公共交通をどの程度までやっていくかというのは非常に難しい問題でございますけれども、当市も一生懸命やっていますので、ご理解いただきたいと思っております。本日は、バスの関係の業界の方たちが来られないので、ちょっと残念なのですが、砂川の地域公共交通も全道各地の中ではまだ砂川のほうがいいのかもしれませんが、交通空白地という部分では、まだまだ砂川市のタクシーが少し多いのではないかと、それから沿線には、バスも 1 時間に 2 本程度ずつ走っている状況でございますので、特に美唄から滝川間については、非常に利便性はまだ落ちていないという状況でございますが、広範囲に申し上げるとちょっと申し訳ないのですけれども、歌志内、上砂川から砂川に出てくる、あるいは、赤平から滝川に出てくるようなバス路線については非常に芦別、赤平も苦戦しているといった状況でございます。

産炭地の基金を活用しながらなんとか公共交通を続けたいということでありまして、芦別と赤平の副市長の会議で申しますと、どれくらい赤字があってもとにかく路線は残していただきたいということもあって、向こうは JR の路線の廃止ということもございまして大変苦戦しているということでございますが、まだうちのほうが少しいいのかなと。会議の中身については後でやりますけどちょっとだけご紹介いたしますが砂川市、先日スクールバスの追加の入札を終了いたしました。今現在中学校を、2 校を 1 校に統合して登校しているので 3 台中学校のバスを走らせていますけれども、今度小学校も統合になりますので全部で 7 校を 1 校にするということで来年令和 8 年の 4 月からバスを 8 台で走らせます。8 台で走らせますので足りない分の残り 5 台を買ったのですけれどもそちらについては、9 時からお昼の 1 時半くらいまでは、どうしても運転手を帯同させながら空白の時間帯になってしまう。今議会で契約部分の議決をいただきました中で、おそらく議員さんからは空白の時間帯をどんな風に使うのだとかっていうようなこととお話をされてくるのですが、契約の議決でするので契約以外のことで質問がされませんので私どもほっとはしているのですけど、追っかけそういった問題が出てくると思っております。

その中でタクシー業界さん、それからバス業界さんとも連携を取りながらそういった市内の循環交通のことも砂川市単独で考えていかないといけないということもありまして、これについては生徒さんと民間の方が混乗することになりますので運輸局さんの許可を取るなりして、先日、北海道支局長さんもおられましたけどもそんな話を紹介差し上げましたら、ぜひ来てくれということでありましたので、少し期待感を持ちながら、この会議を進めていけるかなという風に思っております。

特に問題がある交通をしているわけではございませんので、本日はちょっと事実関係の確認の会議になろうかと思いますが今後はそういった新たな交通も含めながら少し考えていきたい時間も持っていければと思っておりますので忌憚ないご意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしく申し上げます。

3. 議 事

報告第1号 砂川市地域公共交通会議委員の選任について

→事務局より砂川市地域公共交通会議委員の選任について説明した。

報告第2号 北海道運輸局における2次評価結果について

→事務局より令和5年度と令和6年度の評価結果について説明した。

【質疑応答】

会 長 この評価は2年に1回でしたか？

事 務 局 はい

会 長 5年と6年を一括で評価したところでしょうか。ワゴン車で使っている公共交通のバス、バスといいますかジャンボタクシーなのですが9人10人乗れるところを乗合タクシーとは言いますが、2.0何人と2人お乗りいただいていると思っておりますけども、ほぼほぼ1人で乗っているような形の区域も多いのかなと思います。それから運行系統も、ちょっとどっかのページ2ページ目のところに地図が入っていますが北エリアを2つに分けて、過去には南エリア確か2つだったような気もしますが開設当時、実証運行の時は4つのエリアを、実際は3つのエリアに分けましてここの砂川の南北では17キロ、東西では12キロの街ですので、それほど大きな街ではないのと、高速道路が途中入っていますがそれよりも東側についてはほとんど集落という集落はありますが民家があまり正直ないのでそれよりもご家族が車で送ってくるのが多いのかなと思っておりますけども、その直線的な道路のかくかくとしたようなところの方を、市街地に誘導していくというのが事業の本来の目的ではありました。

ここで、市内の料金が300円とですね、遠いところから来る料金が500円と、これを実際タクシーに乗ると2千何百円かかるところを市のほうで、500円でやっていますので残りは1,500円から2,000円くらいは市のほうで負担しているということに一応なっている状況でございます。

検証の結果について、おおむね良好というような形ですが、事務局からもご意見をいただいているところでもありますけども、皆様のほうから改めて報告しておきたいことあれば、お受けしたいと思いますが、どうでしょうか。

A委員なにかお話ししたい感じありますけど、どうでしょう。

A 委員 自分はもう免許返上しているのですが、ただ最近、免許返上の数を、受けると思うのですよね。いろいろ返上した人に聞いてみるとすごく不便になったと思います。買い手を浮かべてほんとにあの家族なんかね、まあ、息子さんなんかもいるのですが、返したら乗せてくから返せっていうのですが、いざとなったらなかなかやってくれない。そういう面もありましてね、なかなか老人クラブで自分は大丈夫だと思っても体のほうだとかね、頭のところだんだん対応できなくなるのだから返したほうがいいですよって言うのですが、やっぱり、これみな、話し合っているのかわかんないのですが、返したらほんとに不便。

病院に行くんでも買い物に行くんでもね、やっぱり、乗り物を手放してしまって不便だというね、老人クラブに入っている人の中でもね、はじめね、そういう話して返納する人結構いたのですが、最近はまだほとんど、ほとんどいない、そんな状態ですよ。それでやっぱり、もうちょっと利便性を高めてもらえればなって言う意見が多いのですよね。というのはあの明らかに乗降場が決められているのですが、このぐらいの数で乗降場ね、あれだったら不便ですので、そして高齢者ですので足のほうも弱ってきているのです。そうすると、まったく降りて大丈夫だかわかるけどもね、やっぱり、これがまたかなり堪えるようでね、ここちょっとなんとか乗降場の数をね、増やしていただけないかなって意見がね、かなりありましてね、その辺なんとかならないかなって。特にあの言われるのがね、ゆうね。ゆうは乗降場になってないのですよね。そうすると、砂川駅の、あそこで降りてわたっていきなきゃいけないのですが、エレベーターがあるしって言われるかもしれないのですが、なんせ降りてから、階段上がったたり下りたりしなきゃなんないのですよね。そうするとやっぱり、いろんな意見がありましてね、なんとかゆうだけでもね、砂川でいろいろ催しとか唯一のところがね、乗降場ないというのはちょっと不便だねって言われる。以前も、私のほうで意見だしたことあるのですが、どうしてあそこダメなのですかって聞いたらね、あのガードがある下、あそこあのバスが渡れないって話されたのですが、その時間きましたらね、今の乗合バスは十分渡れるって言っていますね、そんなこともあるので、なんとか検討していただけないかなって言う感じしていますけど。以上です。

会 長 はい。他にはどうでしょうか。他にこれから、B委員さんとかありますか。

B 委員 前会長からの申し上げで、当初始まった頃はですね、金額はなんか統一をしてなったという話ですね。今は北と南に分かれて、我々の空知太あたりは500円と南に近いところは300円と値段になったのだけど、これは統一できないのかという話です。我々も老人クラブで同じ市でやっているのだから同じ金額でいいじゃないかという話が出ていました。できれば検討していただけないかと思います。

会 長 はい。そうすると市内の人たちはじゃあ俺ら100円でいいじゃないかと。距離的にやっぱり。それはあると思います。

当初 500 円でスタートして、300 円でスタートして 500 円にあげたのでしたっけ。実証運行の時は統一して 500 円でした。統一して 500 円だったものを 300 円にしたのですね。300 円と 500 円で分けたっていう。課長タクシーの初乗りっておいくらでしたっけ。

事務局次長 600 円、610 円とか。

A 委員 いいですか？言われるのは、遠くの人ね、500 円ね、払って乗るのだったら、普通のタクシーね、3 人ぐらいで乗ったらね、500 円出さないで乗れるよっていう話なのですよ。そういうのもあるのですね、そしてあの私計算したらね、200 円高いのがね、どれだけあれなのかなって。乗る人少ないのですね、ほんとほんのわずかなのですよね。それくらい市で負担できないのかなって感じの金額ですから。そんなのちょっと検討してもらえないのかなと思って。確かに、あのね、どこか線引きしてやらなきゃならない面はわかるのですけどもね。

会長 ちょっと先のほうに行くのですけどもね、資料 2 の運行計画のほうにちょっとお尻のほうにあるのですけど、運賃収入 520 万円ですね、運行経費が 2,500 万円かかっているの、1,970 万で 2,000 万円くらい上がっている。ですので、その辺はなかなかちょっとどの辺がボーダーっていうか分岐点っていうか損益分岐点というよりも、赤字の幅は広がるのでその辺をどこまで負担していくのかっていうのはやっぱり出てくる。その件については今ちょっとご意見としてお伺いしますので、後段説明があるのかなと思います。

それから乗降場の関係ですよ。それについては、これは行って帰ってくるの時間って何分とかあるのですか？

事務局次長 30 分。出発地から目的、まちなか乗降地までですね。帰りはその逆ですけども 30 分以内で基本的運行を終えるということです。それでまあ、30 分を超えるような予約の人数や、それから地域的に予約された方の場所が離れているとあって、30 分以内の運行が乗車定員を下回っているとしてもその場合は、普通のタクシーを増車して運行に充てるという約束になっているところですね。

会長 あの、今流行りのなんでしたっけ、AI で運行経路をコンピューターになんというのですか？AI で運行経路や一番利便性が高いとか効率のいい運行をしながらみたいな今あるようですけども、砂川市の場合 10 年間やってましてですね。ほとんどもうこの街の中で確立されてきているので、少しなかなかい運行経路っていうのが浮かばないのですけども。先ほど私ちょっと言いましたけど 17 キロと 12 キロですので、行って帰ってきても 30 分とかっていうところぐらいなのです。何も乗らなければ。ただそこ乗せてくるので、うちの母も使っているのですけどワゴン車降りるときに縁石ぎりぎりに止めてくれるのでステップが高くてよかったねとか言う人たちもなかにはおられますので、やっぱりお客さん乗せると少しずつ時間がかさむのかなと。

それと、ゆうの関係については、南 1 丁目線を通るので、ガード下については確かにワゴン車で通れるのですけども、やっぱりどうしても駅裏から迂回して 1 丁目線までいかなきゃいけないですよ。ですので、今釧路の駅前で L 字にしようか高架にしていこうかというのがあって、高架の 2 路線駅を跨いで市内を分断するのを避けようというようなことはあるようですけども、砂川市の場合どうしても線路を超える場所としたら 5 丁目と南 1 丁目と鷲尾さんのあ

そこまで、あとは北光のこの間の事故のどこまでどうしても行っちゃうのですよね。中々線路を超えられないというか道路から線路まで幅が狭いっていうのもあるのですよね。中々高架にできないっていう事情もあるので、そういったところも、事務方のほうは粘り強く、皆様にお話ししながら、あとは先ほど言った免許の返納のこともですが、考えながら行かなきゃいけないかな。もうちょっと言うと、札幌市なんかは7万円の交通費の補助を出しているわけですよ。

私どもは免許の返納をしても1万5千円くらいしかしないので、もうちょっと出したらいいじゃないかというのもあるのですけど。なかなかそれでもね、免許の返納に応じていただけないっていうのは、やっぱり冬の雪の歩行者っていう形もあってなかなかそういうのがあってはないかなと思っております。その辺について事務局何か情報ありますか？免許の返納関係について。

事務局次長 はい。免許の返納は数的には、件数的には一定程度ですね、毎年返納いただいている。返納によって、まあ返納届は警察のほうにされて、その足で市のほうにお越しいただいて、市からは商品券1万円分ですけどもそれとあと乗合タクシーのお試しでお使いいただけるようにと3,000円分の利用券をお渡しするというところでございます。

たしかに車をもっていて、それと比べると本当に利便性の低下っていうのはまぬがれないと思いますけども、実際車を持たれていると保険だ、車検だ、ガソリン代だっていうところで非常に費用がかさむところをそれが車を手放すことによってはかからなくなった分が今度は逆にタクシーだとかですね、そちらの費用のほうに振り替わって、その部分がプラスマイナスどうなるかっていうのは、ちょっと試算したこともちょっとないので、わからないのですけどもそういったところがあるのかなと思います。

今すぐその部分をもって運行体系、さまざま指摘ご要望いただいている部分ですね、すぐに対応するというのはちょっと難しいとやはり考えているのですけどもいろんな状況を調べながら情報収集をしながら何かできないかということは、常に頭に置きながら業務を進めているというところではありますので、ちょっと本当に何かできます、やりますと回答できないのは本当に申し訳ないのですけども、そのような状況だということでございます。

会長 あの、それから台数を少し増やしてとかありましたけど、すみません、タクシー業界さんのほうで、今台数現実に少しよくなっていますけど増えるということは？

C 委員 増えることはないと思う。

会長 私もお酒大好きですけども、12時過ぎると滝川砂川間で2台か3台でずっと回るだとかって言っていましたので。なるだけ覚悟して飲んでいきますけども、ないですよ。

C 委員 夜は、動きがよくないところで台数を抱えてというのは、なかなか難しいところがありますよね。まだこの辺は美唄とかの1市何町の12時過ぎたらなくなることまではいかないから。

会長 まだ少しうちはあるのとか思いながら。

C 委員 間違いなく、夜中まで1台は。基本2台を走らすは、現実的に言えば無理ですね。

- 会 長 先日の議会でライドシェアかな、あと民間の人が運転するのがライドシェアでしたっけ？
それで札幌がやっているからってということで、砂川の市議会の方もちょっとそういうのはそういう開拓の道をとというようなことで新しくあったのですが。少しまくっているのだろうかと話あるのでですけど今のところ札幌ではどうなのでしょうね。
- D 委 員 札幌はうまくいってないです。
- 会 長 うまくいってないのですか。
- D 委 員 昨年の今頃6月ぐらいに許可とって一番需要が大きいのは当然12月の忘年会シーズンになるのでですけど忘年会シーズンでもあまり稼働はなかったという状況で、札幌のタクシー会社さんでやっていることをご存じでない、周知があまりされていない、あと普通のタクシーが足りないからライドシェアということなのですが、タクシーが足りないのは年末の夜だけで、それ以外の時間帯はタクシーが足りないということでは決してなかった。
札幌以外に実施しているのは木古内なのですが木古内は夜中、夜タクシーがないというのと昼間からタクシーがでられなかったり観光客の足が足りなかったりというので実施しているので、ちょっと夜タクシーが足りないとは違う形ですけど、そこは市役所さんとか町役場さんがかなり深く関与してやっているのも、もしかしたら安定的に一応あるかもしれないです。
- 会 長 夜なのですよね。やっぱり。
- D 委 員 1番足りないのは夜ですよね。で、札幌だけじゃなくて、例えば苫小牧とかそれぐらいの街でも夜はタクシーがないという問題になっていて、ただドライバーがいないので苫小牧でも夜2時とか3時に走っているのは1社しかないです。
- 会 長 今、苫小牧の例出ましたけど苫小牧は8時から11時までにはバスを走らせていますよね？
- D 委 員 年末の12月の最終週とその前の週の2週間だけ金曜土曜の夜に夜2便バスを走らせています。
- 会 長 それが満員になるほど乗っているだとか。沼ノ端の辺りの住宅街に帰るのですかね。
- D 委 員 苫小牧は街が細長いので、海岸があって山があって細長いので、東に行くバス西に行くバスだけ出せばいいので比較的になんて簡単になっているのかなって思います。
- 会 長 運転手不足っていうのはどうしてもっていうところもある。余計な話ですけど砂川市もごみの収集を今委託しているのですが、ごみの収集もパッカー車の運転手がいなくて運転手を確保してもらうためにというのも含めて10年間の債務負担にしてパッカー車の値段も込み込みで、19億の予算を2社に分けて入札したのですが。人件費も当然上がって行くのも10年後を見据えられないのですが、10年後の人件費を見るか、10年後にその会社がちゃんと残っているかを考えたらやっぱりうちは19億も出すので、まあ毎年じゃなくて、1年に1億9千万ずつ出すのですが、やっぱりそうすると会社に残ってもらえるということで、先日札幌

の局長さん来られていて話したら、あそうなの、都会ではごみの収集はなかなかもう運転手がいなくてできないとか言っていて、少しうちの街の状況は少しそれでもまだいいのかなという状況ではあるのかなと思います。

市の職員も大型なり、持っている人たちは退職したらすぐそっちのほうに行っね。

事務局次長 私ですか？持っていますけど。

会 長 待っているのだけど。昔は8万から10万くらいでね、今どれくらいかかるのでしたっけ？

事務局次長 今は2、30万、車も大きい車で教習するのでかなり上がったはずですね。

A 委員 1ついいですか。ちょっと聞きたいのですがね。運転しようとしたらですね、どこの市も全国的にそうなのですが、それでですね、結構地域によって自動運転ね、やられているのですよね、バスね。それで砂川ではね、そういうこと検討だとか、計画だとかそういうことはあるのでしょうか。

会 長 自動運転はですね、あるのですよ。自動運転はマクニカっていう会社がやっているのですが、美唄でもやっているのですがバス1台で6千万くらい。

事務局次長 美唄まだ自動運転じゃないです。

会 長 今実証実験から美唄のレベル2。

事務局次長 のーとはAI デマンド交通です。

会 長 やっているのはロイズ。ロイズタウン。当別なのですが、実証実験だけになるのですが1週間に3,800万くらいかかるのですね。それで砂川は直線の街なので少し美唄から砂川まで29.2キロで少し走らそうかなと思って去年少しやってみようとしたのですがやっぱり、イニシャル最初のお金はまあまあ、補助金をやろうとしていいのですが。ランニングにすごいお金かかるのですよ。積雪降雪地ですと、やっぱり路幅の確保ができなくて、やっぱり苫小牧、室蘭の雪のないところで少し国土交通省も成功体験を積んでもう少しやりたいというのがメインのようです。ですので、今いる運転手不足のところのあてがいと自動運転と今、A委員が言われるような郡部まで行って時間を減らすところも解消まではですねなかなか難しいのかなというのが本音ですね。岩見沢もやっているのでしたっけ。

D 委員 去年、一昨年ちょっと実験で駅から教育大までの間を進んでいます。やっぱり冬が、冬の問題がやっぱり雪降ったらできないってところがまだ。

会 長 除雪車にGPS積んで無人で除雪やるっていうのは国交省の補助で使ってやってみたのですがやっぱり路幅とかよりも段差のレベルがちょっとやっぱりマンホールひっかけたりするのでそれが少しわかんないということもあってなかなか難しいようですね。

そういう時代は必ず来ると思いますので今後期待をしていただきたい。

ユーザー側とですね、私ら実施側との、それから所管の方側もいろいろあるのでしょ
うけど、ちょっと尽きないところがありますので、ここで一旦閉じてですね、議案のほうに行きた
いと思いますけれども、議案の報告3号の決算についてですね。

報告第3号 令和6年度地域公共交通会議決算について

→事務局より令和6年度地域公共交通会議決算について説明した。

【質疑応答】

なし

→承認

会 長 それではこちらでご異議なしとしまして議案第1号の市の予算についてご説明します。

議案第1号 令和7年度砂川市地域公共交通会議予算（案）について

→事務局より令和7年度砂川市地域公共交通会議予算（案）について説明した。

【質疑応答】

なし

→承認

会 長 それでは続きまして議案第2号の運行方針について説明お願いいたします。

議案第2号 砂川市予約型乗合タクシー運行方針（案）について

→事務局より別添資料2に基づき説明した。

【質疑応答】

会 長 はい。ただいま令和7年度運行方針についてご説明いたしました。

前段ですね。いろいろご意見をいただきましたけども、なかなか運行時間の中に便数を増や
す、乗降地を増やすというところがなかなか手を付けられないままいっているというのはやは
り台数が伸びていってしまうっていうようなことですね。それに伴い最後のページの運行事業
費がかさむ。かさむと言ったら事業者に対して失礼なんですけども、かかってしまうという
のが現実なところがあります。それで国庫補助の割合ってどれくらいなのでしたっけ。

事務局 金額で言えば、令和5年度で210万。

会長 パーセントとかないの？

事務局 運行の上限というのがあってですね、令和5年度で210万1千ですね。令和6年度が263万1千ですね。

会長 はい。分かりました。ありがとうございます。なかなか難しいのかなと思うところですけどね。問題はやはりタクシー業界さんに非常にお願いをしながら運行いただいていることと運転手さんが採られないというのが現状です。だからと言ってうちの乗合タクシーばかりやっていて運転手さんが突然少なくなっていくというのもまた困りますし、美唄でしたかタクシー業界無くなったの。無くなったのですよね。まずは今飯澤市長の一番の心配事はとにかくタクシー業界が無くならないようにというところがあったりするのでそういうのも考えながら、乗合タクシーをしていかないといけないところなのかなと思います。それからもう一方ではですね、前段で申し上げましたけど、運転手も確保をしながらスクールバスの運行をしていかなければいけない。スクールバスで少し余剰になったものを学生と市民の方を混乗しながら少し乗せていく方法が、どこにその隙間があるのかってというのはこれから少しやっつけていかなきゃいけない。それで、力強い話では支局の所長さん、福原さんですか。来られた時かかる障害については解決すべく文科省でも掛け合っていたらということだったので、今学校の現場の方は学生以外の方たちがいろいろ乗ってくることについての危険度と言ったら変ですけど、やはりそういうのがすごく不安視されているようです。誰でも彼でもバスに、市民以外の方が乗ってくるのもあれでしょうし、一方でそれは直接タクシー業界にも、痛手になるようなことがあってはならないと思いますので、その辺のバランスがどの辺にあるのか少し考えていかなきゃいけない。まずもって、そういった運行が必要なのかどうかっていうのもアンケート調査をしなればいけないのかなと思います。乗合タクシーの方はアンケートだとか毎回取っているのでしたっけ。

事務局次長 毎回取っていないですけども、最近の利用者の方に対してということで、車内にアンケート用紙を備えてそれにお答えいただいて、利用の満足度だとか不満な点だとかそういうことを調べたということではございました。

会長 不満な点といえば、今日、中央バスさん来られてないですけども、中央バスさんにバスの転換補助金っていうか収支不足の補助金出しているんですけども、コロナで減った分もあるでしょうし、人口が減っていて乗っている人が減っているのもあるのでしょうけども、運賃がまあ物価の高騰でかかる経費が高くなっている差の分なのか、人数が減っているところの差なものかっていうのはなかなか分かりにくくなっているのですよね。バスの料金も道南の方は20年ぶりに上げたら議会で紛糾しちゃったとかっていうのもあったりするので、公共料金を、今200円を210円に上げるだけでも20年かかったとかっていう地域もあれば、今、中央バスさん、大体3.何人でしたっけ。平均乗車率。

事務局 路線によりますけど滝川・奈井江で3.5人。

会 長 バスの中に3.5人しか乗ってないバスですので。そこですね。1時間に1本なのですけども。乗合タクシーも1時間に1本ですよ。午前中と午後と。どうやって競合させないで間に通学のバスも入れながら考えていますけども。現実の方策としてE委員のこうなんか思っているのはありますか。

E 委 員 病院で降りられる方がすごく多いグラフになっているのです。だけど、乗る方ってAiAiの方が多いのですけど、どれ足しても降りた人の合計にならないっていうのは、朝病院に掛かる時に降りられるけども、お帰りに乗る時は乗合タクシーを使わずに違う公共機関を使っていることが多いということなのではないでしょうか。

会 長 これはね、帰りは辛いからね。タクシー使う。

E 委 員 行きは乗合で帰りはタクシー。

会 長 うちのお袋もね。

A 委 員 そんなことないよ。やっぱり、行き乗る人はね、帰りもちゃんとタクシー使われていますよ。そんなね、行きは乗合、帰りはタクシーって使っている人はいないよ。

会 長 うちのお袋は透析あるのですごく疲れやすい。疲れている方は待てないのです。帰りはどうしても待ち時間がどうしてもあるので。行きは自分の家の前からスタートするから。

事 務 局 長 診療時間がね、なかなか合わないとかはあるでしょう。

事務局次長 やっぱり、A委員さんおっしゃるのですけど、もう人数が明らかにあの降りの方がまあ4倍くらい変わっていて、街中のやっぱり商業施設から帰りの便の方が多いですね。人数がやっぱり。ということはやはり少しは流れてそこまでは歩かれたりしているのかもしれないですし、その商業施設でお買い物された後の足は路線バスであったり、一般のタクシーをご利用っていうところもやはりあるはあるという風に考えています。

E 委 員 住み分けっていうよりも上手に使われているのかなっていう風に私は取っています。

会 長 買い物行ってもね、帰りは荷物になりますから。タクシー業界さんにね、トランクに乗せてもらって玄関まで行ってもらうので1番いい。

この機会ですのでぜひ議論しておきたいということがあれば。心残りの無いようにしていただければと。どうでしょう。

副 会 長 乗合タクシーって大体乗られる時って何人ぐらいMAX乗っていますか？
利用状況としてどのくらい乗っていますか？

事 務 局 2便で8.8くらい、MAXで言えば。最大の前年度の火曜日の2便の行きの便で言えば、16.8がMAXで上がってきています。そうしたら増車2台がある事もあり得ますね。

会 長 ですので、乗れなくて次にということはないのでしょ？

事務局次長 増車して一般タクシーをあてていただくようお願いして対応していただいているということです。

C 委 員 基本的にはこっちを優先して他は後回しにしています。
冬場で雪が降るとか、それと年末とかタクシー1時間待ちとか。それは砂川だけじゃなく
滝川の方も40分50分ですね。それくらいタクシーがないっていうか、そこに到達するの
間に合っていないというか。

会 長 そうなのです。そうなのですけど、なんとかやっていたいただいているというところであり
ますので。総務部長も予算をしっかりと計上して。

C 委 員 上砂川も今やっているの、乗合タクシー。奈井江は奈井江でまた別でやっているし。だ
から少ない台数の中で砂川が増便でやっている、そういう具合に人が少なくなってくると上砂
川に2台3台で行っている車を、砂川市内も任すことになっちゃうというのは、それだけ時間
はかかったりするの。

会 長 ですので、ちょっと前段ご紹介差し上げましたけどスクールバス8台持っていて、やっぱり
その人の給料、朝だけ払って、昼は抜いて、3時からまた給料っていうことできませんで
しょ。だからと言って学校の隣の空き地に観光地のようにモップで拭いているバスが8台も
あるなんてそれもおかしいですね。もう、すぐ議会でなんか使えって言われると思うの
です。そういったものを少し加味しながら、今、教育の方にもいろいろ学童保育とス
クールバスと、それからホリさんとシロと北葉楼さんってそれぞれバス持っているの
ですよ。それは駅からピストンだとかって、自分の自社に観光客が来るっていう
やつもあるんですよ。そういうのもなんかその連携協定を結んでやっていったら
いいよねっていうのがなんとなく我々は事務方では思っているのですけど、中々
難しく、あのキャッシュレスでこうやってすれば、最初から登録にすれば、い
ろんな人が乗れなくて済むので、そういうところは少しできるのかなと思
います。まだ、もう少し僕らの次の世代の人がここでしゃべる時にはそういう風
になっているのかなと思います。

事務局の方は何かありますか。

事務局次長 特にございません。

会 長 それでは令和7年度の地域公共交通会議第1回、2回目は文書で？

事 務 局 2回目はですね、今回の会議で話し合った内容を国庫補助の中
空知地域公共交通活性化協議会の方に提出することになるのですけども、それ
でまとめた内容を2回目というか皆さんの方に送付させていただくことにな
りますので、完成した際には委員の皆様へ送付させていただきます。

会 長 それではこれにて公共交通会議を終了させていただきます。
1年間どうぞよろしくお願いいたします。

5. 閉 会 (15:06)